

<中央銀行パネル>

マイナス金利政策の評価

座長 東京大学 宮尾龍蔵

<趣旨>

マイナス金利政策が導入されて8か月が経過する（学会の開催時点）。

本政策の賛否をめぐっては様々な論点がありうるが、まずは金融市場への影響（コール市場、国債利回り、株価・為替レートなど）、金融機関収益への影響など、金融環境面の影響をトータルでどう評価するかが避けて通れない論点である。さらに重要なのは、最終的な実体経済や物価への効果ならびに意味合いである。金利体系の大幅な低下は資金の借り手にとって明確なメリットとなるが、企業・家計の支出はどう増えるのか。金融機関収益への影響は金融システムならびに経済全体へどう波及するのか。長期的な観点からマイナス金利と経済の実力、そして物価目標とはどう整合的なのか。理論的にも、また実際面でも、検討すべき問題は多い。また、マイナス金利政策の実効性に深く関わる預金金利や貸出金利のマイナス化の問題をどう考えるのか、法制度上の制約の意味合いは何かといった論点もある。多様な観点からの討議を通じて、望ましい政策処方箋、学術研究への示唆などを探っていく。